

東播磨地域委員会

取材報告

スペシャルオリンピックス フロアーホッケー競技会

日時 3月8日(日) 13:00~16:30

場所 播磨町総合体育館

主催 旧播磨北小学校施設運営協議会、SO 姫路

先日3月8日に播磨町でフロアーホッケーの交流会が行われた。

主催はNPO法人アエソンと旧播磨北小学校施設運営協議会がSO姫路と連携し開催した

フロアーホッケーとはスペシャルオリンピックスの中でもっとも古い競技で、15m×30m(最小12m×24m)のコートを使い1チーム6人で行なう室内スポーツです。パックの大きさは直径20cmのドーナツ状で非常に軽く当たっても大きな怪我は起こしにくくなっています。

本来は1ゲーム3ピリオドで1ピリオド9分間となっていますが今回は1ゲーム3分とし全員に体験してもらおうようになっていた。

今回の交流会に集まったのは播磨町及び周辺地域の知的障害児(者)・家族50名とSO姫路のメンバー24名、SO川西8名が参加し行なわれた。

午前中にルール説明と講習会が行なわれ午後から競技会と交流会が行なわれた。

交流会としては非常に盛り上がり参加者全員が楽しく参加できたと思います。

参加した障害者や関係者は思っていたよりもハードなスポーツで3分間動いただけで意気が上がってしまうのが楽しかったのであつという間に過ぎてしまったと感想を述べていた。私の目から見ても障害者とスタッフが楽しそうに笑顔いっぱいパックを追う姿がとても印象的に見えた。

スペシャルオリンピックス主催の為、サポート体制は整っており審判員もSOから派遣されてきており競技の運営も十分であり基本は誰でも参加でき、誰でも表彰のため最初に触れる障害者スポーツとしては良いのではないかと思う反面、若干閉鎖的な面もうかがえる。

今後の課題としては継続的に行なえるかである。今回も家族の方が審判やボランティアを務めるなど全般的に障害者スポーツをサポートするスタッフの養成に時間と労力は必要であり地域で参加できる体制が求められる。

但し今回はSO播磨の設立を将来の目的として開催したもので今後も定期的に行なう予定である。



協議会としては今後も地域との連携を進め障害者と健常者が気軽に参加できる地域スポーツを発展させていく手助けをしていきたいと思ひます。

報告者 東播磨地域委員会

小寺 正健